

未来共創イニシアティブ
～プラチナ社会を実現～

活動報告

2023年度



CONTENTS

- P.2 2024年度に向けて
- P.4 2023年度の活動実績
- P.6 課題抽出
- P.10 解決策の収集
- P.13 事業共創
- P.20 事業拡大・社会実装
- P.23 基盤活動
- P.26 ICFアドバイザリーボード
- P.27 ICF会員

2024年度に向

2023年度振り返り

未来共創イニシアティブ(ICF)は、2023年4月に設立3年目を迎えました。節目となる今年度は、基本方針として「社会課題解決型ビジネスを社会実装へ」を掲げ、より実践面に力点を置き活動の幅を広げてきました。

ICF活動全体の起点となる社会課題研究では、「**社会課題リスト2023**」を約1年半ぶりに更新、リリースしました。今回は内容面と併せてビジュアル面も刷新し、より多くの方々の目に触れていただけるよう工夫しています。会員の皆さまには、更新内容に基づく解説セミナーも開催し、内容の浸透に努めました。

有望なスタートアップ発掘・支援を目的とした「**ビジネス・アクセラレーション・プログラム(BAP)**」は9回目を迎え、募集テーマを社会課題リストの内容と関連づけることによって、より具体的なビジネス提案を数多く集めることができました。その後の共創活動経過についても、「**MRI DEMO DAY 2024**」にて発表しています。

その他の活動プログラムにおいても、新しい企画にチャレンジしています。例えば、共創会員を対象にした「共創会員サロン」では、社会問題だけでなく新たな注目技術や社会動向などもテーマに取り上げ自由な議論の場を設けました。また、食生活イノベーションの検討会では、具体的なサービスアイデアである「**シェアダイニング**」を実験的に体験するイベントを開催。さらには、アーティストの思考をビジネスに活かす「**アート思考ワークショップ**」も企画し、会員の皆さまを募って実際に体験していただきました。

またこの1年間で会員数も大幅に拡大し、全体で600を超えるに至りました。会員基盤の拡充に伴い、皆さまとの接点づくりと議論の場の設定にも注力してきました。この結果、会員間のネットワーク形成に少なからず寄与するとともに、「課題」の議論から「解決策」の議論、そして「共創」の議論へと、議論する内容の幅も拡大しつつあります。

このようにICFの会員基盤と活動内容は、年々確実に拡充しつつある一方、具体的な社会実装に関しては道半ばの状況が続いています。引き続き、「イノベーションとビジネスで社会課題解決を目指す」ことを軸にICF活動を進化してまいります。

けて

2024年度方針

2024年度はICFの設立理念を踏襲しつつ、これまでの3年間の活動実績を踏まえ、大きく三つの観点から次なるステージに向けたアップグレードを目指します。

一つめは「社会課題起点=ICF活動の出発点」のアップグレード。ここ数年、世界は目まぐるしく動いています。コロナ禍後もその勢いが増す中、改めて新たな潮流をしっかりと掴み、想定される社会的インパクトを鮮明に描きだすことが出発点となります。同時に、未来志向によるバックキャストिंगでアジェンダ設定することも、社会課題研究の中で扱います。

二つめは「事業共創活動」のアップグレード。引き続き、社会課題解決型ビジネスを生み出す検討は継続します。併せて、新たなマーケットやマーケット・ルールを創り出すために有効な道具類の整備も進めます。社会的インパクトに基づく戦略策定～評価フレームワークや新たなファイナンス・

スキームのほか、マーケット創造に不可欠な機運醸成を含むパブリックアフェアーズの戦略的活用などが鍵を握ります。いずれもICFとして使い勝手の良い道具に仕立てることを目指します。

そして最後に「コミュニティ活動」のアップグレード。多様なICF会員の特長を活かして、それぞれ得意分野・関心領域を持ち寄り、社会課題テーマに沿って繋ぎ、そしてかけ合わせる。これがコレクティブインパクトを生み出す源泉となります。ネットワーキングを単なるネットワーキングに終わらせることなく、産学官連携の道を探ります。ICFイベントへの参画を通じて、参加者個々の「意思」を引き出し、実際に「動く」ところまでを活動範囲として取り組んでまいります。会員の皆さまにおかれましては、2024年度もよりいっそう積極的なご参画をいただければ幸いです。

2024年度次なるステージに向けたICFアップグレード

「社会課題起点=ICF活動の出発点」のアップグレード

激動する世界の潮流をしっかりと掴み、想定される社会的インパクトを鮮明に描きだす。社会課題研究ではバックキャストिंगによるアジェンダ設定にも取り組む

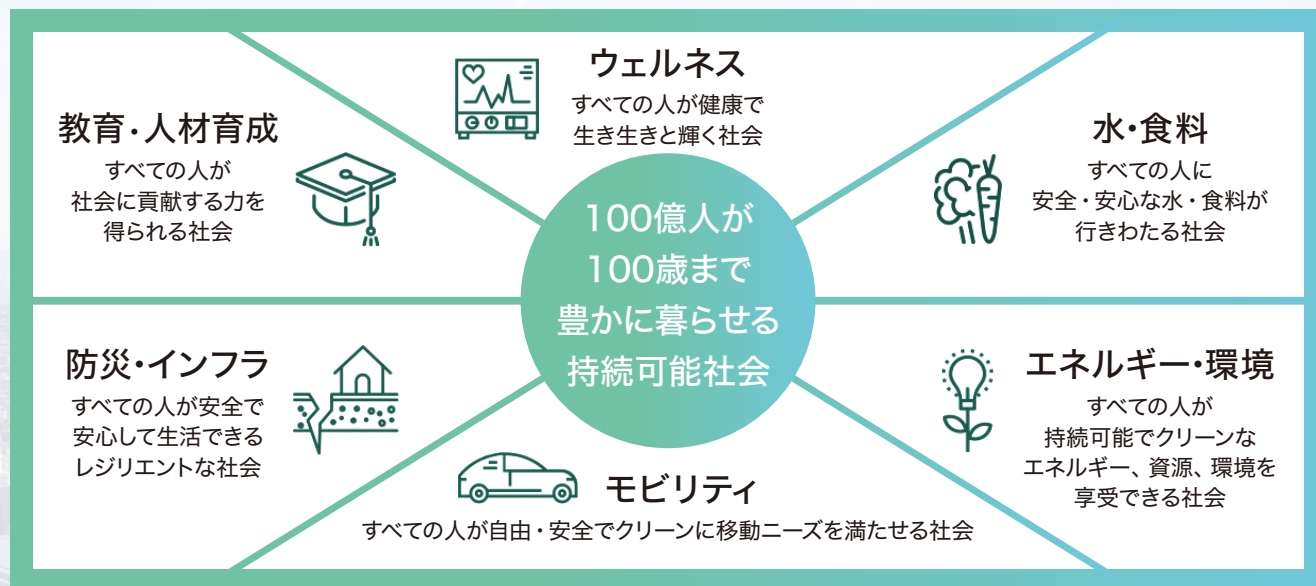
「事業共創活動」のアップグレード

社会課題解決型ビジネスを生み出す検討は継続。併せて、社会的インパクト、新たなファイナンス・スキーム、パブリックアフェアーズなどを戦略的に活用

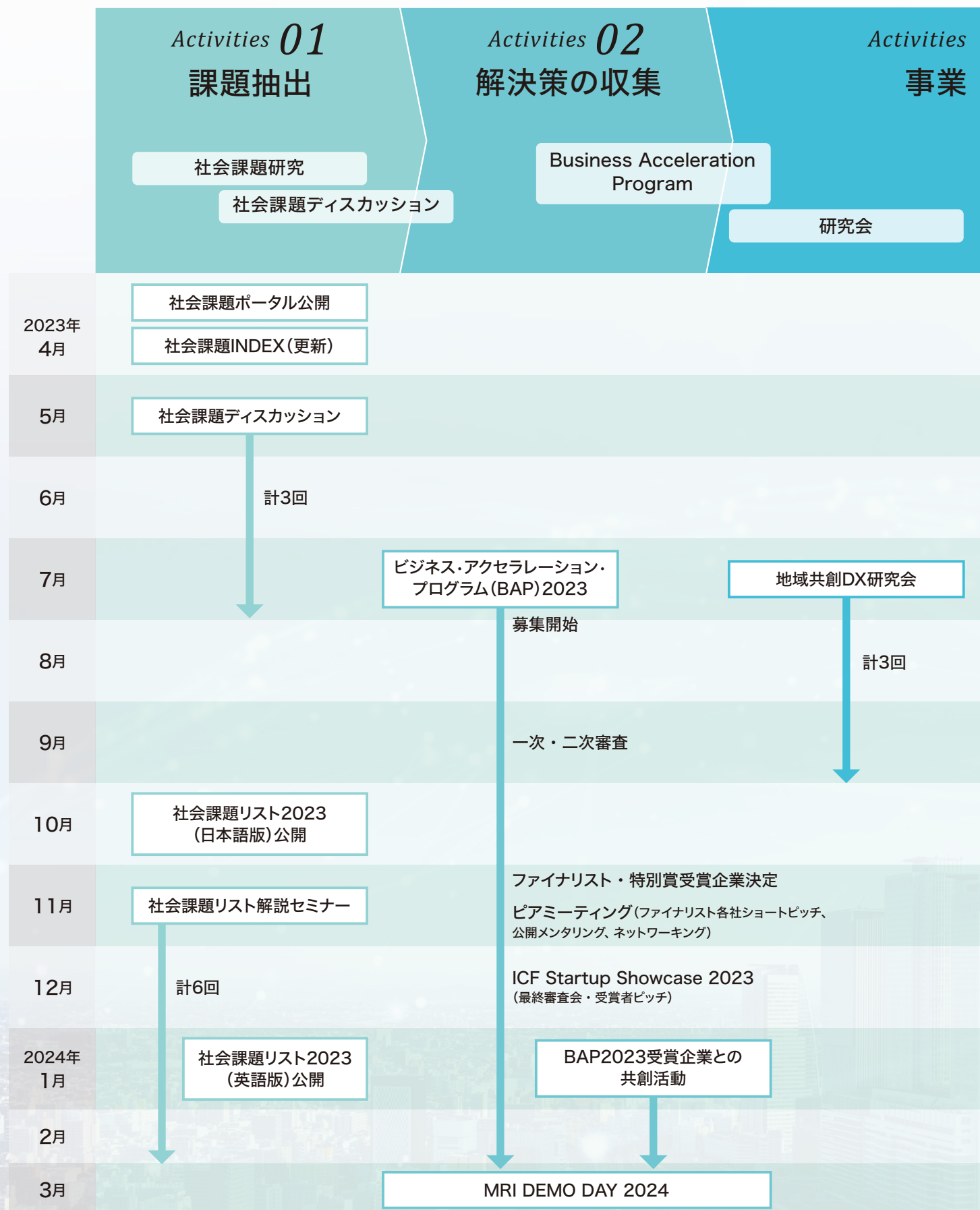
「コミュニティ活動」のアップグレード

多様なICF会員の特長を活かして、社会課題テーマに沿ってそれぞれを繋ぎ、かけ合わせる。ICFイベント参加者個々の「意思」を引き出し、実際に「動く」コミュニティに

ICFが目指す未来社会



2023年度の活動実績



03 共創

未来共創プロジェクト

Activities 04 事業拡大・社会実装

- 政策提言
- 実証実験
- 事業立上げ

Activities 05 基盤活動

- 総会
- セミナー
- ネットワーキング
- 特別セッション

社会実装に向けた共創活動

プラチナキャリア・アワード(第5回)

情報発信

ICF総会

未来共創プロジェクト(FCP)
カーボンニュートラル/ SF思考

- 共創活動事例(通年)
- ・ AIレコメンド技術を用いた観光産業の活性化
 - ・ パーソナルヘルスレコード(PHR)を活用した健康経営企業向けサービス
 - ・ 介護を受ける高齢者とその家族を支援
 - ・ 高大産連携による探求学習支援
 - ・ 共創コミュニティ形成支援
 - ・ インパクト評価トライアル

共創会員サロン
計5回
ICF Meetup 2023

ICF Midterm
Gathering(中間報告会)

未来共創プロジェクト(FCP)
食生活イノベーション/シェアダイニング

未来共創プロジェクト(FCP)
アート思考

プラチナキャリア・アワード(第6回)

活動報告制作

課題抽出

社会課題リスト2023公開

『イノベーションによる解決が期待される社会課題リスト2023』（以下、社会課題リスト）を2023年10月に公開しました。また、2024年1月には英語版も公開しております。社会課題リストは、さまざまな社会課題を分析・整理し、特にイノベーションによる解決が期待される社会課題を6分野（ウェルネス、水・食料、エネルギー・環境、モビリティ、防災・インフラ、教育・人材育成）から抽出し、合計31の社会問題について、【社会問題>社会課題>解決の糸口】という3ステップの構造で提示しています。

いま世界で何が起きているのか、何が大事なのか、そして何が本質（根源）なのか警鐘を鳴らしつつ、解決のヒントも示し、具体的解決に向けたきっかけづくりを目指しています。問題の把握から原因の分析、重要度・優先順位の見極め、解決に向けた課題設定、具体的な解決策に結びつくヒントまでワンセットにしてお届けしています。

「100億人が100歳まで豊かに暮らせる持続可能な社会」の実現に向けた羅針盤となるアジェンダとして、共に課題解決に挑む皆さまとの共創活動の一助になれば幸いです。



表紙
アートデザイン

表紙・裏表紙に掲載しているアートは、ICF会員・ヘラルボニーの契約アーティストである高田祐氏（自然生クラブ／茨城県）の作品「迷路」を起用しました。ヘラルボニーは、「異彩を、放て。」をミッションに掲げる福祉実験カンパニーです。国内外の、主に知的障害のある作家と契約を結び、2,000点を超える高解像度アートデータの著作権管理を軸とするライセンスビジネスを展開しています。福祉領域の拡張を見据えた多様な事業展開と、これらの社会実装を通じて「障害」のイメージ変容、福祉を起点とした新たな文化の創造を目指しています。

イノベーションによる解決が期待される社会課題6分野

ウェルネス

- ①生活習慣病による医療費の増大
- ②介護人材の不足が深刻化
- ③医療サービスへのアクセスが不十分
- ④孤独・孤立による弊害の深刻化
- ⑤メンタルヘルスを損なう人の増大
- ⑥女性の健康リスクが増大
- ⑦パンデミックの頻発・深刻化

水・食料

- ①食料供給力の低下
- ②需要構成の変化に伴う食料調達困難
- ③利用可能な水資源の不足
- ④食品ロスの弊害が深刻化
- ⑤豊かな社会に残る不健康な食
- ⑥「食」のダイバーシティへの期待
- ⑦コミュニケーションに「食」を活かす

エネルギー・環境

- ①エネルギー供給側の脱炭素の加速が必要
- ②需要側にも省エネ・脱炭素の余地大
- ③資源のリサイクル、有効利用が不十分
- ④環境汚染・破壊の深刻化
- ⑤生物多様性の損失

モビリティ

- ①車中心の交通システムがもたらす負の効用
- ②需要増加に対する物流処理能力不足
- ③交通が不便な地域の拡大
- ④デジタル技術による移動の急速な変化

防災・インフラ

- ①自然災害への備え、対応が不十分
- ②社会インフラのマネジメントが不十分
- ③空き家の増加がもたらす都市荒廃
- ④サイバー攻撃の増加・深刻化

教育・人材育成

- ①時代が求めるスキルの習得が不十分
- ②学び直しを行う社会人が少ない
- ③情報の氾濫と偏り
- ④人材のダイバーシティが不足

》 更新ポイント

今年度の改訂は、2017年の初版発刊以降、第6版となります。新型コロナウイルス感染症の世界的流行やロシアのウクライナ侵攻などの世界情勢を踏まえて社会問題をアップデートするとともに、サイエンスコミュニケーションの観点から視覚的表現にも力を入れました。

今回の更新ポイントは、以下の3点です。

① 分野横断的視点の追加

社会問題は複雑に絡み合っており、複数の分野をまたぎ影響しあう要素はいくつもあります。「社会課題リスト2023」では、分野を超えた重要テーマを「スペシャルコラム」として特集しました。今回は以下の4テーマを採り上げています。

- ・名著『自由の命運』からイノベーションを考える
- ・社会課題解決とDX
- ・水資源は諸刃の剣
- ・社会実装とパブリックアフェアーズ

② ビジュアル・アブストラクト

【社会問題>社会課題>解決の糸口】という3ステップを視覚化するために、ビジュアル・アブストラクトの手法を採り入れました。

これはもともと欧米圏で論文要旨を視覚的に表現するため

に開発された手法で、研究の背景、方法、成果を3つの枠でグラフィカルに描くものです。社会課題リストに掲載している31の社会課題をすべてビジュアル・アブストラクトとして視覚化したことで、ひと目で課題の構造が理解できます。さらに関心を持った社会課題については本文を読み込めるようになっています。

③ ICF活動の成果を反映

ICFでは、会員とともにさまざまな社会課題に関する議論を継続してきました。特に、未来共創プロジェクト（FCP）では解決を目指す社会課題のテーマを設定し、定期的なワークショップ活動を通じて社会へのインパクト創出に向けた取り組みを行っています。昨年度から今年度にかけて「食生活イノベーションFCP」「気候変動FCP」「ウェルネスFCP」などを開催し、これらの活動成果の一部を社会課題リストに反映しています。

》 入手方法

社会課題リストをご希望の方は、以下にアクセスのうえ必要事項をご入力ください。入力内容をご送信後、ICF事務局からダウンロード用ページをご案内します。

<https://icf.mri.co.jp/research/research-389/>

ビジュアル・アブストラクト手法に基づく社会課題整理の例

4|モビリティ(2)需要増加に対する物流処理能力不足(「社会課題リスト2023」P144)



社会問題

速く確実にモノを届ける日本の物流サービスの維持が危うい!

社会課題

サプライチェーンの全体最適化、ドライバーに依存しない輸送・配送手段の開発

解決の糸口

小口多頻度配送を実現する効率化・最適化、ドライバー不足を補う省人化・自動化

社会課題ポータル公開

ICFが公開している社会課題関連のコンテンツ（社会課題リスト、社会課題リスト解説動画、社会課題INDEX 他）を社会課題テーマごとに集約したポータルサイトを公開しました。サイトでは、「社会課題リスト」（P6にて紹介）で取り上げている社会課題を全31テーマに分けて掲載。公開に

当たっては特にビジュアルイズと情報集約性に注力し、興味を持ったテーマについては、より理解を深めていただけるように構成しています。サイトの活用方法については以下をご覧ください。

サイトの見方一例) ウェルネス(1) 生活習慣病による医療費の増大

チェックポイント①
ビジュアル・アブストラクト
 近年欧米を中心に、論文の内容や主な発見を図にまとめて要約し、わかりやすく伝える「ビジュアル・アブストラクト」という手法が広まりつつあります。本サイトではこの手法を取り入れ、それぞれの社会課題テーマの構造を、「社会問題=何とかしなきゃ」「社会課題=どうすれば」「解決の糸口」の3ステップでわかりやすくビジュアルイズしています。

チェックポイント②
社会課題リスト
 10月18日に「社会課題リスト2023」を公開しました。本サイトでは、テーマごとに内容をご確認いただけます。

チェックポイント③
社会課題INDEX
 各社会課題テーマの社会的インパクトを、様々な指標を用いて数的に可視化しています。

チェックポイント④
関連コンテンツ
 三菱総合研究所が出す様々なコラム・レポートから、社会課題のテーマとリンクするものをピックアップしています。

チェックポイント⑤
解説動画
 各社会課題テーマを解説する動画を配信しています。



社会課題ポータルはこちらから確認いただけます

<https://icf.mri.co.jp/societal-issues/>

社会課題ディスカッション

ICF会員の皆さまに社会課題研究の進捗を報告するとともに、社会課題について議論する「社会課題ディスカッション」(全3回)を開催しました。会員の皆さまが今、特に関心を寄せている社会課題や、解決に向けた最新の動向について共有し、日々変化する社会課題について我々はどうのような取り組みを行うべきかについて話し合いました。

全3回は、社会課題リストに掲載している社会課題6分野を2テーマずつにわけ、議論を進めました。第1回(5/31)のテーマは「ウェルネス」「水・食料」。特に多く関心が寄せられたのは介護人材の不足と食の安全保障についてです。特に近年の世界情勢悪化を背景として、「非常時の食をいかに確保し」「平常時の食を安定的に供給するか」を課題とした食の安全保障は多くの参加者が注目ポイントとして挙げました。このことを踏まえ、「社会課題リスト2023」でも食の安全保障の観点を大きく盛り込みました。

第2回(6/14)のテーマは「エネルギー・環境」「モビリティ」。エネルギー・環境分野では日本のリサイクル率の低

さに驚きの声が上がったほか、モビリティ分野では自動運転普及における課題について議論が盛り上がりました。また、参加者から、運転情報のデータ化や、データと保険料が連動した保険商品の販売など、ビッグデータとテクノロジーを駆使した最新動向についてもご紹介いただきました。第3回(7/25)のテーマは「防災・インフラ」「教育・人材育成」。参加者からは子どもへの教育の在り方はもちろんのこと、大人の学び直しに多くの関心が寄せられ、ご自身が取り組まれているリカレント教育についてご紹介いただく場面も見られました。また、防災・インフラ分野では「平常時における問題意識の低さ」が大きな問題として挙がりました。到来が確実視される巨大地震に備え、言語や年齢、障害の有無に関わらず誰もが自身に必要な情報を必要なタイミングで享受できるシステムが求められるほか、我々一人ひとりが当事者として防災意識を高めるべきだといった課題が浮き彫りになりました。

各回開催概要

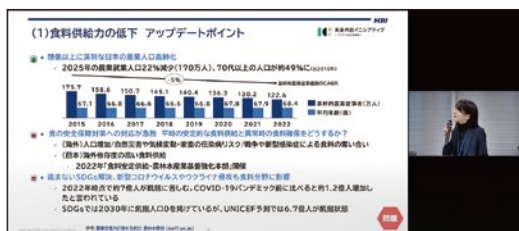
	解説・グループディスカッション分野	話題提供テーマ
1	2023年5月31日 ウェルネス、水・食料	「女性の健康/ジェンダードイノベーション」(大和ハウス工業株式会社) 「フットフレイル」(住友生命保険相互会社)
2	2023年6月14日 エネルギー・環境、モビリティ	「NTTデータが共創により解決したい社会課題～地方創生等を中心に～」(株式会社NTTデータ)
3	2023年7月25日 防災・インフラ、教育・人材育成	「リカレント教育」(株式会社ワークシフト研究所) 「防災DX」(三菱総合研究所)

社会課題リスト2023 解説セミナー

「社会課題リスト2023」の公開に伴いまして、ICF会員の皆さま向けに、本社会課題リストの見どころや概要を解説する「社会課題リスト解説セミナー」を全6回で開催しました。セミナーでは、各担当者による今回の改訂ポイントの解説や、質疑応答、また各回テーマに沿って様々な企業の皆さまから話題提供いただきました。

なおICF会員の皆さま向けに、解説部分のアーカイブ動画をYouTubeにて限定公開しております。下記URLよりご覧ください。

https://icf.mri.co.jp/note/lsl2023_seminar/



「水・食料」回解説の様子

各回開催概要

	解説分野	話題提供テーマ
1	2023年11月15日 社会課題リスト概要 ウェルネス	社会課題リスト2023の見どころについて (ICF事務局)
2	2023年12月15日 水・食料	「食育」(TOTO株式会社)
3	2023年12月26日 教育・人材育成	「本気のダイバーシティ(DE&I)を考える」(株式会社ヘラルボニー)
4	2024年1月26日 エネルギー・環境	「カーボンニュートラル行動変容」(Sustineri株式会社)
5	2024年2月9日 モビリティ	「交通・物流の社会課題解決事例」(SWAT Mobility Japan株式会社) 「3万人アンケートから見るEV普及のヒント」(エム・アール・アイリサーチアソシエイツ株式会社)
6	2024年2月28日 防災・インフラ	「CRMと位置情報を活用したモバイルアプリ「UPWARD」による防災DX及び災害復旧への取り組み」(UPWARD株式会社) 「バーチャル避難訓練」(株式会社ジોકリエイツ)

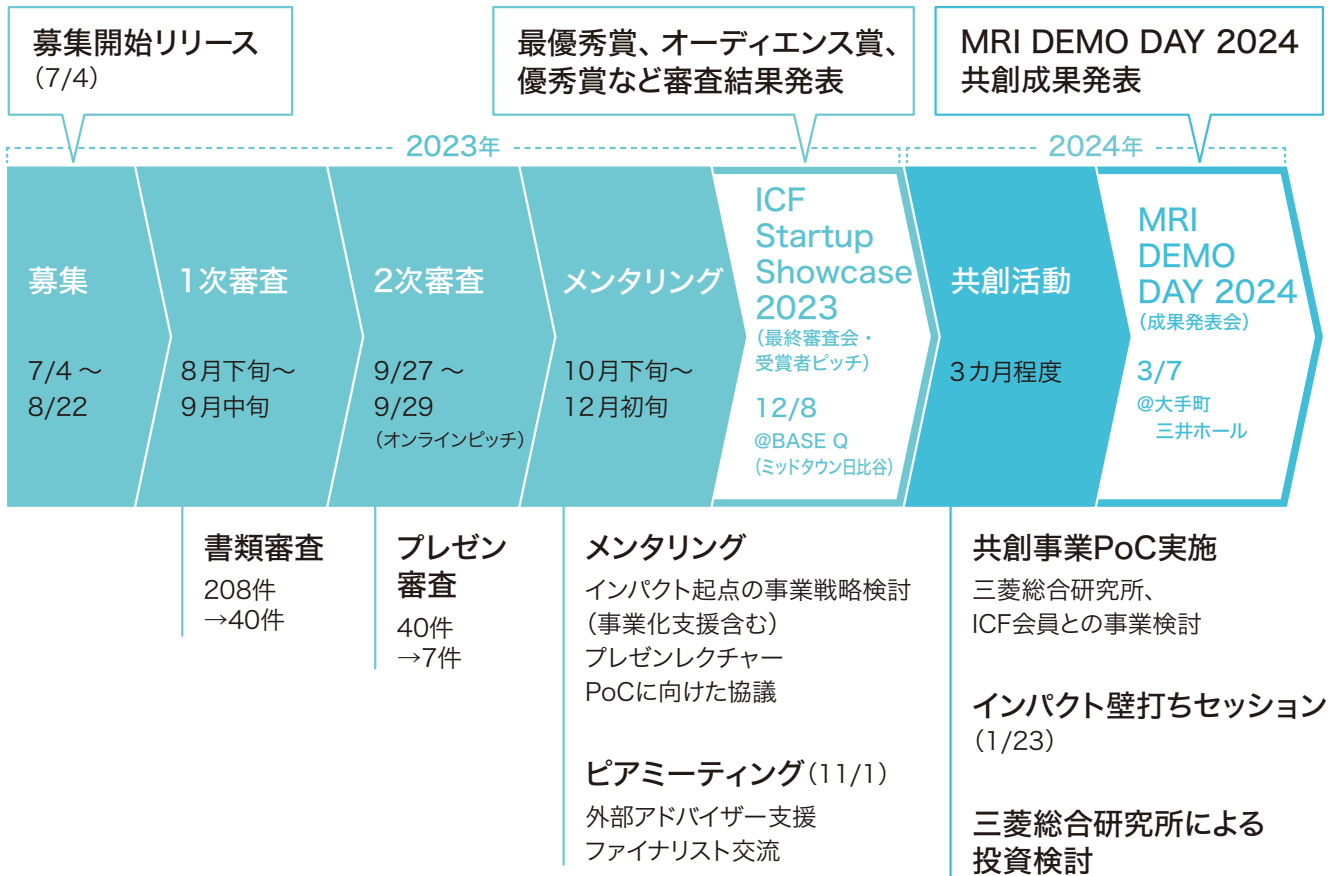
解決策の収集

ビジネス・アクセラレーション・プログラム(BAP)2023

BAPは、2016年以来、今回で通算9回目の開催となります。これまでに累計約1200件の提案応募を受け付け、社会課題解決に資する有望かつユニークなビジネス提案を表彰・支援、その後の共創を進めてきました。ファイナリストを中心にベンチャー会員の継続的な増加につながっています。昨年度は成果発表会「MRI DEMO DAY」を初開催し、BAP受賞者を含むスタートアップとの共創から生まれた社会課題解決の具体的な取り組み、社会実装に向けた連携の姿を見える化しました。BAP2023は、社会課題解決へ高い志を持つスタートアップと「未来のために何をすればよいのか」とともに考え、行動し、“技術・イノベーション”の社会実装を目指すプログラムとして設計。こうした思考・行動をともにできるスタート

アップを募集しました。BAP2023の応募総数は海外からの応募50件も含め、過去最高の全208件。これまでと比べても、解決が困難な社会課題に実現性の高いビジネスで果敢に取り組むスタートアップが多く集まりました。BAP応募企業のビジネス提案は共創会員の皆さまに共有し、共創活動を推進しています。12月8日に開催した「ICF Startup Showcase 2023 (以下ISS)」では、7社のBAPファイナリスト最終審査に加え、新たに8社のBAP特別賞受賞者ピッチやブース出展、ネットワーキングも実施し、多くのビジネスマッチングに繋がりました。ISS後は、BAP2023受賞者とICF会員及び三菱総合研究所で、社会的インパクト創出を目指し、具体的な共創事業案を検討、事業化に向けて活動を進めています。

プログラムの流れ



》 ICF Startup Showcase 2023 (BAP2023 最終審査会・受賞者ピッチ)



BAP2023 ファイナリストと特別賞受賞者、審査員、三菱総合研究所関係者

最優秀賞 (ICF 賞)



Sustineri株式会社 Web サービスの自動カーボンニュートラル化

- 効果的な気候変動対策である「カーボンオフセット」を、企業も個人も手軽に選択できるサービス「Susport」を提供
- API連携などにより、オンラインで販売する商品やサービスのCO2排出量を算定&オフセットし、自動でカーボンニュートラル化を目指す
- 温暖化は地球の大きな問題。そこから派生するさまざまな課題を行動変容で解決していくことは非常に重要。既にさまざまなエコシステムを作り始めている点を評価

最優秀賞 (三菱総研賞)



株式会社ノビアス 行動変容を促す実感性の高いヘルスケアサービスの普及

- スマホやウェアラブルでは取得できない毛髪検体からの情報をもとに新たな栄養摂取量の評価サービスを提供
- 健康管理の「新しい指標」をつくることで、セルフケア推進を目指す
- 健康経営は大きな社会課題。体内ミネラル量を数本の毛髪で手軽に計測するサービスにより、個人の健康データを集め、予防のための行動変容につなげる事業構想は、三菱総合研究所の社会実装パートナーとして期待できる点を評価

オーディエンス賞



SWAT Mobility Japan株式会社 利用者の移動データに基づく最適な公共交通の設計とAI オンデマンド交通運行システムの提供

- 人やモノの移動の課題解決のため、オンデマンド交通運行システム、路線バス交通分析ツール、物流配送最適化システムを提供
- テクノロジーの社会実装を通し、ビジョンである“Empowering the world to move more with less”の実現を追求
- 最終審査会参加者(オンラインを含む)の投票で第1位

優秀賞



グランドグリーン株式会社 激変する環境に対応する未来の植物をスピーディーな種苗開発で実現

- 名古屋大学発のアグリバイオスタートアップであり、あらゆる作物に適用可能なゲノム編集プラットフォームと独自改良したゲノム編集Kitを用いて、様々な実用作物品種に対してゲノム編集を行い、新たな付加価値を持った作物を提供
- 独自のゲノム編集技術により、食品価値向上や食品ロス削減への貢献が期待できる点を評価



株式会社ジオクリエイツ バーチャル避難訓練：フェーズフリーな施設案内VRを関連付けて

- 建築学会賞受賞のデジタルツイン研究から、多数の建築VRに関わった上で、視線脳波による空間アナリティクスツール「ToPolog(トポログ)」を開発。これをベースに「バーチャル避難訓練」等、様々な市場のDX・AI化を推進
- 脳波や視線誘導による評価を可能としたVRツールにより、避難訓練などの施設防災対策の高度化が期待できる点を評価



株式会社tayo 多様な人材の活用で、日本を再び科学立国に

- 研究者が実名でプロフィール公開を行うアカデミア向けのビジネスSNS「tayo」の運営・開発を通して、産学連携のマッチングや研究者の就職・転職・副業の支援を提供
- イノベーションの観点から研究者の潜在能力を見出すことで、産官学の人材交流活性化への貢献が期待できる点を評価



Earable Neuroscience Inc. Redefining aging with better sleep experience: AI-powered FRENZ Brainband

- 睡眠に関わる生体データをトラッキングし、認知行動療法に基づく科学的に裏付けられた音楽ライブラリから、ユーザーに最適なコンテンツを骨伝導スピーカーで流す、ヘッドバンド型のデバイス「FRENZ Brainband」を提供
- 脳波の測定・分析と骨伝導による音のフィードバックをリアルタイムかつ個別化して提供することで、睡眠の質の改善と健康増進が期待できる点を評価

特別賞



【インパクト賞】

審査の視点：社会インパクトの大きい事業の創出が期待される

株式会社WizWe 習慣化プラットフォーム「SmartHabit」

株式会社REMARE 海ごみ再資源化プロジェクト

株式会社YStory 更年期デジタルヘルス

株式会社FINBEST 家庭の省エネによるカーボンクレジットの創出&販売サービス



【テック賞】

審査の視点：優れた技術で社会課題解決への貢献が期待される

エアロセンス株式会社 国産VTOL次世代機を活用したドローン物流

株式会社Acompany ヘルスケアデータの活用とプライバシー保護の両立

Phenikaa-X Joint Stock Company

Transport Automation and Monitoring for Sustainable, Safe, and Active Communities

Wrtn Technologies Inc. Wrtn, the AI Assistant for All

BAP2023 受賞者との共創活動

※注：構想段階の共創プロジェクトを含む。



株式会社ジオクリエイツ

高齢化時代における災害対策 ～火災に備えるAI・VRソリューション～

社会がますます高齢化していく中、火災被害を軽減していくためには、ICTを活用した新しい「火災への備え」が必要である。三菱総合研究所は、AI・VRの知見を持ち、感情推定AI、バーチャル避難訓練を展開するジオクリエイツと連携し、火災の予防に役立つICTツールを社会展開することで、火災被害の半減、社会全体の負担軽減への貢献を目指す。



Sustineri株式会社

サステナブルな取り組みが正しく評価される世界へ

2050年のカーボンニュートラルを実現するためには需要側の行動変容と技術革新が必要である。Sustineriは需要側の行動変容を促進するためのCO2排出量可視化・オフセットのサービス「Susport」を開発・提供している。三菱総合研究所は、正確なCO2算定に寄与する一次データの収集や、削減対策を比較検討できる情報を整理することでSusportを高度化し、サステナブルな選択を日常的に実現できる社会を目指す。



株式会社tayo

多様な人材コラボレーションによるイノベーション創出に向けて

海外と比べ、日本は創造的タスクを担う人材の割合が低い。今後、技術発展や社会変化に伴い、創造的タスクを担う人材が不足し、さらにはイノベーション創出の遅れが懸念される。この人材需給ギャップ解消のためには、リスクリングや、労働市場外からの創造的人材の流入促進が重要。三菱総合研究所の官民向けコンサルティングノウハウとtayoのアカデミア人材プールを活用し、産官学連携によるイノベーションの促進を目指す。



SWAT Mobility Japan株式会社

世界一のルーティングアルゴリズムによる自由で最適な移動の実現

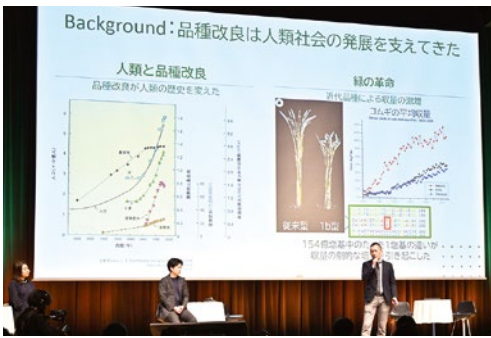
より良い公共交通事業を継続するためには、都市部・地方部に限らず、公共輸送サービスを自立・維持する取り組みが必要である。多くの地域では移動需給の可視化も困難な中、SWAT Mobility Japanは世界一のルーティング・アルゴリズムで地域の交通分析やAIオンデマンド交通サービスを提供している。三菱総合研究所は、ルーティング・アルゴリズムの地域交通におけるユースケースを創出し、ステークホルダーとの連携をコーディネートしながら地域に最適な交通の実現を目指す。



株式会社ノビラス

PHRを活用し企業の健康経営をサポート

生活習慣病の増加による医療費の逼迫は喫緊の課題であり、未病対策、疾病予防、早期発見はより重要性を増している。また企業においては人的資本経営の観点から、健康経営の推進が重要課題となっている。ノビラスの技術は毛髪を用いて簡便に体内ミネラル量を測定できるため、他のヘルスケアソリューションを有するスタートアップと連携してサービスパッケージを構築、企業の健康経営に資するデータを提供するスキームの創出を目指す。



グランドグリーン株式会社

激変する環境に対応する未来の植物を、スピーディーな種苗開発で実現

世界の人口増と経済成長により必要となる食料の確保に向けて、効率的に農作物を生産していくことが肝要である。また、気候変動問題が深刻化する中、環境負荷を削減した方法での生産が求められている。グランドグリーンは、ゲノム編集技術により、食料生産体制の変化に対応するソリューションを提供する。三菱総合研究所は、植物に対する品種開発技術を活用した連携パートナー探索を支援し、豊かな食生活と環境の両立を目指す。



Earable Neuroscience Inc.

ENHANCE SLEEP AND UNLEASH HUMAN POTENTIALS
(睡眠の質を向上させ、人間の潜在能力を引き出す)

成人の約4割は睡眠時間が6時間未満の「眠らない国」日本。それに伴う健康リスクはますます増大する。Earable Neuroscienceは睡眠の質を高める脳波ヘッドバンド (FRENZ Brainband) を開発し、睡眠中の脳波計測と個人に最適なオーディオコンテンツの提供により睡眠に関する課題解決に貢献する。三菱総合研究所は、業界単位で睡眠の質改善に取り組むパートナー探索、データ起点で進める健康経営の支援や、未病・健康改善サービス・パッケージ構築などにより、睡眠の質向上による人間の潜在能力を引き出すことを目指す。



Wrtm Technologies Inc. + 株式会社ハタプロ

麻布台商店街で生成AIを用いた社会課題解決

麻布台商店街は、AIやIoT関連技術に強みを持つハタプロと連携し、スタートアップなどが町会・自治体と協働しながらイノベーションを生み出していく特区を構想。三菱総合研究所は、社会課題やインパクト評価に対する知見を活かし、同商店街を社会課題解決の実証フィールドとして機能させる役割を担う。実証の一例として、生成AIの教育・研修プログラムを有するWrtm Technologiesとともに、地域課題を生成AIをはじめとする時代が求めるスキルを学習しながら解決していくパッケージを構想。実証後はより広域でのサービス提供を目指す。

MRI DEMO DAY 2024



2024年3月7日、大手町三井ホールにて「MRI DEMO DAY 2024」を開催。三菱総合研究所がBAP2023ファイナリスト・特別賞受賞者と取り組んできた共創事例を含め、社会課題を起点にしたスタートアップとの共創活動について広く発信しました。当日はリアル・オンライン合わせて、400名以上の方にご参加いただきました。

MRI DEMO DAYは、BAPファイナリストとの共創事例や、三菱総合研究所が手掛けてきたスタートアップとの連携・共創の成果や実績をご紹介するプレゼンイベントです。昨年度(2023年3月10日)は初開催ながら、社会課題解決に関心を寄せる多数の方々にご来場いただき、スタートアップ・エコシステムの活性化につながる新たなネットワークが生まれました。今回の「MRI DEMO DAY 2024」は、「シンクタンクとスタートアップ、社会課題解決の最前線へ」をキーワードに、前回よりも更に充実したプログラムを構成し、社会課題起点の共創活動から、より大きな社会的インパクトを創り出す試みを紹介。共創活動の発表の場に留まらず、共創パートナー探しやイノベーション創出の学びの場ともなりました。冒頭のキーノート・スピーチでは、ボーダレス・ジャパン田口氏に「スタートアップが社会課題解決に取り組む意義～ステークホルダーとの共創に求めるもの～」と題して、スタートアップの活躍と、それを支えるエコシステム形成の重要性、コミュニティを作ることによりインパクトを創出する「カンパニオ」の仕組みなど、多くの実例を踏まえてお話いただきました。続いて、三菱総合研究所とスタートアップの共創事例を紹介。ICFから生まれた共創事例(New Ordinaryの事例など、詳細はP20「事業拡大・社会実装」を参照)に加え、New Space Intelligence(衛星データ活用)、JR西日本コ

ミュニケーションズ・NTTドコモ(触覚VR活用)との共創事例などを発表しました。

さらに、BAP2023ファイナリストと三菱総合研究所が共同で、社会的インパクト起点での共創活動について発表。特別賞受賞者であるWrtn TechnologiesとBAP2020ファイナリストのハタブロとの共創活動も紹介しました(P14参照)。また、共創のパターンを、共同研究、提案、新機能開発、新規事業開発、コンソーシアム構築の5つに類型化し、今後の共創活動拡充に向けた新たな参画者を募る呼びかけを行いました。

最後に、「社会実装のその先へ～よりインパクトを創出するためには～」と題し、大企業とスタートアップが共創することで、インパクト創出の観点からビジネスをスケールアップさせる方策について多角的にディスカッションを行い、以下のようなご意見をいただきました。

社会課題の解像度を上げることが重要。現場に赴き、自分の目で見て、感じて、聞く。このプロセスを通して、課題が自分ごとになり、具体的なソリューションに結びつく。

イノベーションを起こすのは多くの場合スタートアップ。大企業とスタートアップとの連携の際は事業主体としての役割をスタートアップが担う。

多様な主体で共創するために大企業がリーダーシップを取ることに意味がある。

まずはビジネスとして小さな成功を収め、それを社会変革を説明するためのツールとして活用し、そこから大きなビジネスを描いていけると良い。

これらを踏まえ、引き続きICF活動を通じてコレクティブインパクトの創出を目指します。

プログラム終了後、ネットワーキング会場では大企業・自治体・スタートアップなどの皆さまが、2時間近くにわたり交流され、盛況で閉幕しました。

プログラム

Opening Remarks

1. キーノート・スピーチ

「スタートアップが社会課題解決に取り組む意義～ステークホルダーとの共創に求めるもの～」
田口 一成 氏 株式会社ボーダレス・ジャパン代表取締役社長

2. MRI Activities

三菱総合研究所のスタートアップ連携・共創活動紹介

3. ICF and BAP Activities

ICF/BAPのスタートアップ共創活動紹介

4. パネルディスカッション (50音順)

「社会実装のその先へ～よりインパクトを創出するためには～」
大畑 慎治 氏 Makaira Art&Design | MAD 代表
紺野 貴嗣 氏 トークンエクスプレス株式会社 代表取締役
道場 弘貴 氏 富士フイルム株式会社 マネージャー
山添 真喜子 株式会社三菱総合研究所 主任研究員

Closing Remarks

ネットワーキング

未来共創プロジェクト (FCP)

未来共創プロジェクトは、解決を目指す社会課題のテーマを設定し、定期的なワークショップ活動を通じて社会へのインパクト創出に向けて取り組むプログラム (FCP : Future Co-creation Project) です。

》カーボンニュートラル「SF 思考」ワークショップ

2022年度に開催した「生活者のカーボンニュートラル行動変容FCP」の後続企画として、SF 思考の枠組みを用いた「カーボンニュートラルな未来を考えるSF 思考ワークショップ」を2023年7月4日に開催しました。SF 思考とは未来のユーザー目線からバックキャストを行う手法で、新たな発想を生み出すことにたけています。

当日は約20名が4チームに分かれ、カーボンニュートラルに関わる未来の新しい言葉を考えるところからスタートし、新技術や新制度、果ては消滅する業界に至るまで広く未来社会を考えてみました。その後、事前に作成したSF小説を活用し、未来のキャラクターたちの生活を想像しながら、サービス内容を具体的に改善し、新たに起きそうな課題までも解決できる新サービスを検討しました。

参加者からは「現状起点では得られないカーボンニュートラルへの取り組みアイデアが得られた」「SF 思考で考えるのは楽しく、学びが多かった」「SF って荒唐無稽だと思っていたが、リアリティもありつつワクワクする未来のサービスを考えることができた」といった感想をいただきました。

今後も、カーボンニュートラルテーマに限らず、SF 思考が生きるテーマへの横展開などを進めていきます。

生活者のカーボンニュートラル行動変容FCP

カーボンニュートラルに向けた「生活者の行動変容を起こすための民間による取り組み」をアイデア出しし、実現方法を検討する位置づけで、2022年9月より開催しています。会員の皆さまと課題を共有し、新たなインサイトを提示することで次の動きにつなげていきます。2023年5月に「Insight Report 脱炭素に向けて生活者の行動変容を引き起こす!」を発行しました。過去に開催したFCPでの検討結果などをご紹介します。ご関心をお持ちの方はICF事務局へお問い合わせください。



https://icf.mri.co.jp/wp-content/uploads/2023/05/CN_Insight-Report_230523.pdf

なぜ今、SF思考が必要とされているのか？

「未来は予測するものではなく、創るものである」

しかし.....

- 研究開発テーマ/新事業創造、Vision/Purpose策定など、様々な場面で未来社会像を描く必要がある
- マクロトレンドや技術トレンドから未来社会を予測すると、遠隔医療/自動運転など.....
- 実現したい挑戦的な社会について具体的イメージをもって描くことは困難 (抽象的な所で止まる) (未来感がでない/Willも無く実現への意欲がわからない)

どうすれば、良いのか？

SF思考

「未来のユーザー目線を取り入れた未来導出手法」 2023年

MRI 三麗総合研究所

当日投影資料より(オンラインワークショップ)

》 食生活イノベーション「シェアダイニング × ICF」



コロナ禍による食卓を囲むコミュニケーションの制限は撤廃された一方で、世帯構造の変化や、ライフスタイル、食生活の多様化と関連した「孤食」、「個食」にまつわる問題点が指摘されています。食プロセス（食料生産、調達、調理、飲食）を通じたコミュニケーションの重要性が増す中、食を通じたコミュニケーションを促進する仕組みの構築、多様なニーズに対応した豊かな食生活の実現を目指し、2022年度より食生活イノベーションFCPを開催しています。

本FCPは、ICF 会員に加え、産学官の多数のステークホルダーが参画する「フードテック官民協議会」における食生活イノベーションワーキングチームと合同でディスカッションを行ってきました。

食生活イノベーションの目指す姿と必要な取り組みとして以下3つの観点をあげています。

1. 多様なニーズに対応した食のパーソナライゼーションを実現

より豊かな食生活を実現するための食べ物・飲み物のパーソナライズ・レコメンドシステムの提供。特にPHR（パーソナルヘルスレコード）と食料品購買履歴を結び付け、食べ物の推奨摂取量を家族単位・個人単位でレコメンドできるような仕組みの構築。食体験の拡張という観点からは3Dフードプリンタの活用も。

2. シェアダイニングによるコミュニケーション向上を実現

食料販売店や公共施設の中に、調理と食事ができる空間（シェアダイニング）を設置し、「多人数で作って食べる」ことでコミュニケーション向上を図る。スーパーなどの食料販売店のほか、地域の公民館や保育園などの公共施設、マンションの共有スペースなどを想定。

3. 食卓での豊かなコミュニケーションを実現

食卓を囲む人々との会話のきっかけを提供するような、食卓への小型ロボット設置。例えば、目の前の食事についての情報（食事に関するエピソード）を提供し、コミュニケーションの活性化につなげる。

2023年度は、2022年度に作成したロードマップをチームメンバーで見直し、アップデートを行いました。加えて、食生活イノベーションにおいて重要な取り組みの一つと位置付けている「シェアダイニング」の概念普及と理解促進を目的に、食生活イノベーションFCPのスピノフ企画として「シェアダイニング×ICF」を実施しました（2023年12月25日開催）。「シェアダイニング」は同志社女子大学 日下菜穂子教授が提唱されている取り組みで、単に集まって食べるという行為だけでなく、調理や食の情報活用、これらの情報発信などによるつながり拡大、そして、健康や生活の質を向上させる食空間の創出を目指すプロジェクトです。

（参考： http://dwc-gensha.jp/HP_kusaka/sharedining/）

当日は三菱総合研究所に日下教授をお招きし、参加者全員でぜんざいを調理しました。会場にはシェアダイニングの肝となる「新しい関係性が生まれる体験を共有」できる様々な仕掛けを用意しました。例えば、乾杯するだけでプロフィールが共有できる「カップインターフェイス」や、2人以上でないと使えないカトラリ「ロングカトラリ」、自身のチーム内での行動が常にフィードバックされ、行動の活性化が誘発される「天井カメラ」などは、リアル開催ならではの体験となりました。参加者からは「実際に様々なツールを使用してみると、想像よりもずっと会話が弾んだ」「“一緒に調理する”ことで生まれる会話がこんなにも相手との関係性を深められるとは思わなかった」などのご意見をいただき、大変好評でした。また、本プログラムがチームビルディングのツールとして有効ではないかという新たな視点でのビジネス構想も飛び出し、早速ご参加いただいた企業の皆さまとのコラボレーションの可能性が生まれました。これを踏まえ、今後は関心を持つ事業主体の探索も含め、具体的なビジネス展開の議論・提案につなげていきたいと考えています。



行動の活性化が誘発される「天井カメラ」(写真左上)

》アート思考ワークショップ



アート思考とは、アーティストが作品を制作するうえでやっている思考方法です。アーティストが創造性、独創性を引き出すプロセスをビジネスにも活かさないかと、日本のビジネス界でも数年前から注目を集めています。特に、閉塞感からの脱却や環境変化からイノベーションを創出する試みなどの場面においてアート思考への期待が高まっています。ICFにおいても、プラチナキャリア・アワード記念シンポジウム(6/20)での東京藝術大学副学長 清水泰博教授の講演を契機に、会員から、アート思考の導入に向けて知見を広げたいという声が上がリ、アート思考の考え方を体験するワークショップを企画しました。2024年1月29日に、清水教授を講師にお招きし、「社会人向け創造力向上ワークショップ【アート思考ワークショップ】」を開催しました。2時間という限られた時間でしたが、まず事務局より、アート思考のビジネスシーンでの位置づけを解説し、続いて清水教授にワークショップの内容をご説明いただきました。その中で「アーティストは『特別に器用な人』だと思われがちだが、対象をよく観察しているから上手に描ける。本日のワークショップでは、皆さんもテーマを持って、対象をよく見ることを心がけてください」とアドバイスがありました。本ワークショップは、東京藝術大学美術学部で行われている教育手法を応用したものです。対象をよく観察することに加えて、「頭であれこれ考えるよりも、先に手を動かしながら検討していく」アーティストが行っている制作過程そのものを実践し、グループワークに取り組みました。また、ワークショップでは、参加者一人ひとりが自身の子ども時代のエピソードを思い起こし、日常生活の中で忘れかけていた感性を取り戻すことを目指しました。参加者からは、「心の声をまず形にして、そこから対話で理解していく過程が新鮮だった」「課題解決のひとつの手法として、アート思考が広く普及するとよいと思った」など、アート思考のビジネスシーンへの展開可能性を感じさせる意見をいただきました。

ワークショップ プログラム

1. 作文(個人)

- ① 印象に残っている子ども時代のコミュニケーション体験を書く(いつ(何年生・何歳頃)、どこで、誰とを入れる)
- ② 自身の作文を朗読して発表(他の参加者の体験を聞く)

2. 「ZINE」[※]用の誌面制作(グループ)

※「ZINE」・・・自由な手法・テーマで制作した小冊子

1. の体験談の共通性に着目し、事務局にてグループ分け
 - ① 誌面づくりグループ内でコミュニケーション
 - ・ タイトルを決める
 - ・ 文章とイラストを入れる
(講師アシスタントの藝大学生によるイラスト支援あり)
 - ② 作品について発表グループの代表者
 - ・ なぜこのテーマにしたかなど、振り返る、説明することによって、自らの作品に対する理解を深める



地域共創DX研究会

人口減少・高齢化、地域の多様かつ複雑な社会課題への対応が求められる中、地域社会では公助から共助・自助へのシフトが課題となっています。この潮流をデジタル活用で加速させるため、三菱総合研究所にて「地域共創DX研究会」を企画し、ICF会員を含む官・民の皆さまと共に協議・意見交換をしました。

本研究会では、住民にとって地域・行政との一元的なデジタルによる窓口（接点：タッチポイント）として「住民ポータル※」を構築することを想定し、住民ポータルを通じた住民の利便性向上、オンライン行政手続きの拡大、地域企業におけるデジタル利活用の推進に関して検討しました。

※住民ポータルをここでは「地域共創ポータル」と呼びます。

活動内容

第1回研究会(7/14)では、地域共創DX構想や民間企業の社会課題解決型デジタルサービスをご紹介しました。行政職員の方も多く参加いただき、開催後のアンケートでは、住民との接点強化としてプッシュ通知・情報提供サービスに関して多くのご意見をいただきました。

第2回研究会(8/30、8/31)では、第1回の結果を踏まえ、住民コミュニケーション、ヘルスケア、地域福祉の3つのワーキンググループ(WG)に分かれ、それぞれの分野でのデジタルサービス活用についてグループディスカッションを実施しました。各WGで自治体・企業の参加者が意見を交わし、デジタルサービスや地域が抱える課題の理解を深めることができました。

第3回研究会(9/22)では、住民アンケートにより住民視

点でのデジタルサービスのニーズについて調査した上で、その結果の共有と意見交換を実施しました。

住民アンケートでは、地域共創ポータルの必要性について「そう思う」「ややそう思うが」が半数を超える一方で、「どちらとも言えない」との回答も多い結果となりました。また、デジタルサービスのニーズとしては、オンライン手続きが最も高く、行政からのプッシュ通知が続く結果となりました。上記結果については、デジタルサービスの導入を検討する行政職員の方からも参考になったとの声をいただきました。

今後の方向性

本研究会で把握したデジタルサービスのニーズに基づき、地域共創ポータルの実現に向けて、以下の内容を実施する予定です。

- プロトタイプ作成、実証などによる事業のフィージビリティの検討
- 社会課題解決型デジタルサービスを持つ企業との業務提携の可能性の探索

想定メンバー

- 自治体：住民ポータル、自治体スーパーアプリや民間サービスとの連携にご関心のある団体
- 民間企業など(ベンチャー企業含む)：自社サービスを社会課題解決に利用したい団体、官民連携サービスにご関心のある団体、行政サービスを含め地域住民向けにスマートフォン利用のサービス・ソリューションをお持ちの団体



出所：三菱総合研究所

社会実装に向けた共創活動

ICFは、2023年度の基本方針として「社会課題解決型ビジネスを社会実装へ」を掲げ、より実践面に力点を置き活動の幅を広げてきました。三菱総合研究所並びにICF企業会員とベンチャー会員などとの共創活動事例をご紹介します。

New Ordinary との共創活動 (ベンチャー会員 / BAP2022ファイナリスト)



来街者のウェルビーイング向上を実証 ※1

三菱総合研究所が提唱する「actfulness」(行動機会の創出を通してウェルビーイング(WB)向上を図るコンセプト)に関する効果測定モデルと、New Ordinaryの観光アプリ「NOSPOT」を組み合わせ、AI(人工知能)レコメンドにより行動機会を創出。来街者のWB向上について分析しました。東武鉄道の協力のもと、2023年7月～8月に浅草周辺で行った本実証では、総合的な満足度の指標となる「WBスコア」が平均で約10%上昇。街の魅力の再発見にもつながるなどの結果が出ました。より多くのデータ蓄積と更なる改善でアプリの精度を高め、来街者の満足度を上げるとともに、事業者の収益向上に向けた施策検討に役立つサービスへの発展を目指します。

観光のコト消費拡大に向け連携開始 ※2

New Ordinary、Tourism Exchange Japan (TXJ)、三菱総合研究所の3社は、観光におけるコト消費の拡大に

向けた協業を2023年12月から開始しました。三菱総合研究所の支援・コンサルティングのもと、New Ordinaryの「興味・関心に合わせたAIレコメンド技術」と、TXJの「観光・文化体験と旅行者を結ぶオンラインシステム」を組み合わせ、観光客にとって魅力的な体験が得られるサービスとして、2024年度初頭の提供を目指します。本サービスを自治体、観光協会などに提案・提供することで観光体験やコト消費を創出・拡大し、各地域と観光産業の活性化に貢献してまいります。

「南海観光レコメンドマップ」を期間限定で提供 ※3

New Ordinaryが提供するAIが、大阪・和歌山のオススメ観光地や飲食店をマップ上で提案する「南海観光レコメンドマップ」を2024年2月から5月まで期間限定で提供します。本サービスは、イノベーション創出拠点MUIC Kansai「課題解決プログラム」の実証実験として、南海電鉄沿線エリアにて実施。対象エリアへの観光客の回遊促進を図るとともに、利用者の興味や観光行動データを分析します。南海電鉄は掲載スポットの提供や本サービスの普及促進を担い、三菱総合研究所はAIのレコメンド精度向上に協力。AIレコメンド技術に強みを持つNew Ordinaryとの連携で、関西における観光地の周遊拡大を促進していきます。

【参考】三菱総合研究所ニュースリリース

※1 2023年9月29日 <https://www.mri.co.jp/news/press/20230929.html>

※2 2023年12月25日 https://www.mri.co.jp/news/press/20231225_1.html

※3 2024年2月14日 <https://www.mri.co.jp/news/press/20240214.html>

共創活動事例

共創テーマ	共創概要 ※検討実績含む
ウェルネス パーソナルヘルスレコード(PHR)を活用した健康経営企業向けサービス	ヘルスビット + ノビアス + フラクタルワークアウト + UNTRACKED + MIG + 三菱総合研究所 ヘルスケア関連スタートアップと三菱総合研究所が連携し蓄積したデータ(PHR)を活用したビジネスを検討。ビッグデータ解析プラットフォームのForePaaSを用いて三菱総合研究所がセキュアなデータ基盤を整備し、ヘルスビットをはじめとする優れたヘルスケアサービスのソリューションを有するスタートアップが活用。企業の健康経営に資するデータ・サービスをパッケージ化することで、各社の様々なニーズに対応する事業の共創を進めている。
ウェルネス 介護を受ける高齢者とその家族を支援	NTTデータ + ケアプロ NTTデータ(共創会員)が家族介護者の仕事と介護の両立を目指した新たな保険外サービス「ケアサポ」を考案。具体的サービスコンテンツとなり得る「交通医療サービス」を手掛けるケアプロと組み、介護を受ける高齢者とその家族の両方を支える新サービスを一緒に構想中。来年度からは実証実験を開始する予定。

共創テーマ	共創概要 ※検討実績含む
教育・人材育成 高大産連携による探求学習支援	Study Valley + 三菱総合研究所 三菱総合研究所は探究学習支援に取り組むStudy Valleyと共同で、未来の海を担う人材育成を目的とした海洋関連の企業・大学との連携による高校探究学習プログラムを検討。それらを基にStudy Valleyが経産省「未来の教室」事業に公募申請し採択された。(高校探究学習の高大産連携モデルの実証事業) 三菱総合研究所はコンテンツ提供者として参画し、無人運航船に関わる三菱総合研究所の取り組みについての教材を福岡県内の高校に提供。海洋関連の課題や無人運航船に関わる多様な主体への関心喚起につながった。
共創基盤 共創コミュニティ形成支援	テイラーワークス + 三菱総合研究所 Tailor WorksをオンラインコミュニケーションツールとしてICF会員向けに試験的に導入。Tailor Worksの利用は2023年10月をもって終了したが、導入を通じて共創を目指すコミュニティにおけるリアル/オンラインのコミュニケーションの在り方などに関する知見が得られた。
社会的インパクト インパクト評価トライアル	ninpath+三菱総合研究所 スタートアップ向けIMM(Impact Measurement and Management)を不妊治療サポートサービスを提供するninpath事業にて実施。事業の社会的影響の可視化により更なる発展を共創するとともに、三菱総合研究所ならではのスタートアップのインパクト評価・投資手法確立に向けて、ユースケース構築を行った。

プラチナキャリア・アワード

人生100年時代、働く期間の長期化が現実的になり、その対応は企業にも求められています。一方、ITやAIなどデジタル技術の進展、世界的な経済環境の激変もあり、従来のように企業が雇用者を全面的に育成していく難しさも指摘されています。

これからは、年齢を問わず自律的に学び、そのスキルをビジネスにいかし、さまざまな社会課題を解決していくことが求められます。そのような社会の流れを踏まえ、ICFでは、日本の働き手である社会人が目指すべきキャリア像を「プラチナキャリア」と定義し、これを形成する3つの特徴を、長期的視点、自律的学び、社会課題解決としました。

プラチナキャリアを形成する3つの特徴

長期的視点

単に長く働くのではなく、年齢によらず活躍し続けるキャリア

自律的学び

自ら能動的に学び、経験を積んでいくキャリア

社会課題解決

ビジネスで社会課題解決を目指す意識を持ったキャリア

プラチナキャリア・アワードは、三菱UFJ信託銀行（共創会員）とICFの共同企画として、プラチナキャリア形成を支援する企業を表彰するものです。2023年は5回目の開催となり、多くのご応募をいただきました。

第5回プラチナキャリア・アワード受賞企業

最優秀賞 (1社)

NEC ネットズエスアイ株式会社

優秀賞 (6社)

(50音順)

株式会社NTTドコモ

株式会社オカムラ

ソフトバンク株式会社

SOMPOホールディングス株式会社

日清食品ホールディングス株式会社

株式会社丸井グループ



第5回プラチナキャリア・アワード 重点評価項目

社員一人ひとりのライフスタイル、キャリア形成を考慮したリスクリリング環境を会社として整備しているか。

- VUCAの時代において、社員にスキル向上の方向性をどのように示しているか
- 社員が新しいスキルを獲得する際に、本人がモチベーションを高め、やる気をもって取り組める制度を導入しているか
- 自律的にスキルを向上した社員に対して、エンゲージメントを高める施策があるか
- 上記制度・施策が従業員に浸透しているか

第5回プラチナキャリア・アワード審査委員会

審査委員長

三菱総合研究所 理事長 小宮山 宏

審査委員 (50音順)

株式会社イー・ウーマン 代表取締役社長 佐々木 かをり 氏
 デジタルハリウッド大学大学院 教授 学長補佐 佐藤 昌宏 氏
 東京大学大学院教育学研究科 教授 牧野 篤 氏
 オフィスモロホシ社会保険労務士法人 代表 諸星 裕美 氏



第5回プラチナキャリア・アワード記念シンポジウム

同アワードの実施を記念して2023年6月20日に記念シンポジウムを開催しました。パネルディスカッション冒頭で、最優秀賞を受賞されたNEC ネットズエスアイの加藤徳満氏に、社員のキャリアアップ支援や各種取り組み事例についてご講演いただきました。ディスカッションパートでは「プラチナキャリアの推進が企業と社会に与える効果」をテーマに、パネリストの皆さまが、多様な観点から意見交換を行

いました。2024年度も引き続きアワードを実施する予定です。プラチナキャリア・アワードの詳細は公式サイト（下記URL）をご確認ください。プラチナキャリア実践事例も掲載しております。

プラチナキャリア・アワード公式サイト
<https://platinumcareer.mri.co.jp>

第5回プラチナキャリア・アワード記念シンポジウムプログラム

- 開会挨拶 ○ ICF 事務局長 須崎 彩斗
- 後援者挨拶 ○ 厚生労働省 キャリア形成支援室長 佐藤 悦子 氏
株式会社東京証券取引所 常務執行役員 川井 洋毅 氏
- 基調講演 ○ 日本をプラチナ社会に -カギは経験そして人材-
プラチナキャリア・アワード審査委員長 三菱総合研究所 理事長 小宮山 宏
- アワード結果発表 ○ プラチナキャリア・アワード事務局
- 記念講演 ○ やりたかったことを見つける -アートシンキング〜ビジネス
東京藝術大学 理事・副学長(研究担当) 教授 清水 泰博 氏
- パネルディスカッション ○ プラチナキャリアの推進が企業と社会に与える効果
〜アワード5年間の振り返りと将来に向けて〜
<パネリスト>
NEC ネットズエスアイ株式会社(第5回プラチナキャリア・アワード最優秀賞) 人事部長 加藤 徳満 氏
大和証券株式会社 エクイティ調査部 チーフESGストラテジスト 山田 雪乃 氏
三菱UFJ信託銀行株式会社 資産運用部インデックス戦略運用室 上級調査役 小西 健史 氏
プラチナキャリア・アワード審査委員 (氏名50音順)
株式会社イー・ウーマン 代表取締役社長 佐々木 かをり 氏
デジタルハリウッド大学大学院 教授 学長補佐 佐藤 昌宏 氏
東京大学大学院教育学研究科 教授 牧野 篤 氏
オフィスモロホシ社会保険労務士法人 代表 諸星 裕美 氏



Activities 05

基盤活動

ICF 総会 (2023/4/18)

ICF 設立3年目となる2023年度のスタートにあたり、ICF 総会を開催、会場・オンライン合わせて170名超の皆さまにご参加いただきました。

事務局長より、社会課題解決型ビジネスを社会実装へつなげていくこと、会員同士の連携に一層注力し、ICF 外のエコシステム・ネットワークとの協働も強化していく方針などを表明しました。これを受けて、基調講演では「100個の新産業を共創する」をコンセプトに掲げているSUNDRED 留目真伸氏をお招きし、「社会実装を前提とした未来共創のアプローチ」をテーマにご講演いただきました。

また、プログラム後半には、新たに加入された会員を中心に12の企業・団体にご登壇いただき、社会課題起点での各事業の紹介とともにICFへの期待について語っていただきました。終了後には会場参加者による交流会を行い、活発な意見交換が行われ、盛会となりました。参加者アンケートでも



「内容が充実していた」「社会課題解決へのヒントが得られた」「今年度の活動に期待が持てた」などの評価・コメントをいただきました。

プログラム

ご挨拶 三菱総合研究所

基調講演

「社会実装を前提とした未来共創のアプローチ」

SUNDRED株式会社 代表取締役 留目 真伸 氏

2022年度報告・2023年度活動方針 ICF事務局長

新規会員ピッチ

【共創会員】株式会社NTTデータ

【企業会員】株式会社Will Smart / Yaala株式会社

【ベンチャー会員】株式会社ヘラルボニー / 株式会社ビーコン

株式会社EduCare / 株式会社With the World

株式会社Helte / Maccam株式会社 / 株式会社エイシング

【賛助会員】大韓貿易投資振興公社 投資誘致チーム

国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構

イノベーション推進部

交流会

ICF Midterm Gathering (中間報告会) (2023/10/20)

ICF 中間報告会「ICF Midterm Gathering 2023」を開催し、会場とオンライン合わせて100名超の皆さまにご参加いただきました。冒頭、「イノベーションによる解決が期待される社会課題リスト2023」の公開と改訂のポイントを事務局から解説しました。今年度ICFでは「社会課題解決型ビジネスを社会実装へ」をキーメッセージとして活動しており、これを踏まえ、ベンチャー・企業・自治体会員5社・団体から、社会課題解決に向けて取り組んでいる具体的なアクション、活動事例をご紹介いただきました。

プログラム後半は「社会課題解決事業におけるインパクト評価」と題して、パネルディスカッションを実施しました。

インパクト評価業務に取り組んでいる、あるいはインパクト評価の活用を実践しているベンチャー会員3社から取り組みと実践事例をご紹介いただき、その後パネリスト間でインパクト評価の可能性と課題についてディスカッションを行いました。

本テーマについて参加者からの関心も高く、様々な分野に適用できるインパクト評価をどう活用し、より大きなインパクトを創出していくか、ICFでは引き続き議論、検討を続けていきます。

プログラム

ご挨拶 三菱総合研究所

2023年度上半期の活動実績と今後の活動について ICF事務局

会員ピッチ (登壇順)

ケアプロ株式会社 / Hyperloop Transportation Technologies

株式会社アダゴテック / 株式会社Next Relation

八王子市 産業振興部産業振興推進課

パネルディスカッション

「社会課題解決事業におけるインパクト評価」

〈パネリスト〉

トークンエクスプレス株式会社

&PUBLIC株式会社

株式会社ninpath

三菱総合研究所

交流会



ICF Meetup 2023 (2023/7/6)

規模や業種・業態の異なる多様なICF会員が一堂に会して、社会課題解決への取り組みなどの情報共有や意見交換を行う交流・マッチングイベント「ICF Meetup 2023」をハイブリッドで開催しました。当日は、会場とオンライン合わせて約120名の方にご参加いただき盛会となりました。

プログラム冒頭には「これからのウェルビーイング社会」と題して琉球大学教授 荒川雅志氏にご講演いただき、「インサイドアウト（自分ができることから始めるアプローチ）」の実践が重要であり、インサイドアウトの考え方で社会課題解決を図ること、ウェルビーイング社会に向けた価値創造が重要であることのお話をいただきました。続いて、三菱総合研究所より「MRI が考えるウェルネス戦略におけるスタートアップの役割と期待」を話題提供。予防・未病・疾病早期発見を目指し、スタートアップと三菱総合研究所がともに取り組む、健康経営関連事業構想について紹介しました。

プログラム後半の会員ピッチは、ICFが設定する社会課題6テーマの1つ「ウェルネス」を取り上げ、関連する企業・ベンチャー会員9社にご登壇いただきました。各社からは、自社事業をウェルビーイング、ウェルネス視点で捉え直し、新たな価値提供・創出の検討をしているなど、社会課題解決に向けた先進的な取り組みをご紹介いただきました。ピッチ終了後、登壇企業を中心に8社のブースを設置し会

場参加者による交流会を行いました。ブースでは、各社が準備したデモ機やサービスの体験などを通じて積極的なコミュニケーション、活発なネットワーキングが行われました。ICFでは引き続き、会員の皆さまの共創活動につながるマッチングイベントを企画していきます。

プログラム

ご挨拶 ICF事務局長

基調講演

「これからのウェルビーイング社会」

琉球大学 国際地域創造学部/大学院観光科学研究科

ウェルネス研究分野 教授 荒川 雅志 氏

話題提供

「MRI が考えるウェルネス戦略におけるスタートアップの役割と期待」

三菱総合研究所

会員ピッチ（以下登壇順）

ヘルスピット株式会社 / 株式会社 salmontech

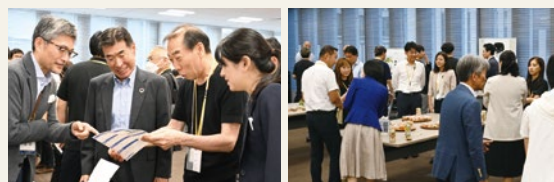
株式会社ハイクラス / フラクタルワークアウト株式会社

mirrorX株式会社 / iSurgery株式会社

ユニロボット株式会社 / Olive株式会社

株式会社ヤマハミュージックエンタテインメントホールディングス

交流会



共創会員サロン

共創会員間の対話・コミュニケーション促進の機会を創出することをねらいとして、今年度から「共創会員サロン」（共創会員限定プログラム）を企画、開催しました。

国内外における今後の経済社会、技術の潮流や動向など幅広いテーマについて、三菱総合研究所や社外有識者から話題提供を行い、その後、参加者の皆さまと意見交換を行う参加型プログラムです。

毎回終了後には懇親会を開催し、ネットワーキングの場としても活用いただきました。参加者から「時機に適ったテーマを選定いただき、関連な議論ができ良かった」「若手にも



参加させたい」などのコメントをいただきました。また、本イベント参加者同士の会話をきっかけに、新しいビジネスの可能性を議論する場も生まれています。

各回開催概要

開催回	テーマ・講師
1 2023年 6月23日	「ChatGPT がもたらすビジネス変革について語りませんか」 三菱総合研究所 ビジネス&データ・アナリティクス本部 グループリーダー 清水 浩行
2 2023年 9月7日	「データで読み解く、ほんとうの高齢者の姿とは」 三菱総合研究所 常勤顧問 長澤 光太郎
3 2023年 11月2日	「経済安全保障をめぐる国際情勢と政策の最新動向」 国際社会経済研究所 主任研究員 山田 哲司 氏 三菱総合研究所 常務研究理事 古屋 孝明 三菱総合研究所 先進技術・セキュリティ事業本部 本部長 明石 道融
4 2023年 12月22日	「最新テクノロジーがもたらす2030年の未来」 京都大学経営管理大学院 客員教授 山本 康正 氏
5 2024年 3月15日	「米ボストン・ハーバードから見た 社会課題イノベーションとスタートアップ事情」 三菱総合研究所 シンクタンク部門 副部門長 柏谷 泰隆

情報発信

会員向けにMonthly Newsを配信し、ICF活動の報告と今後の予定をお知らせしています。また、同ニュースの抜粋版(日・英)をICFサイト上で一般公開しています。

(日本語)<https://icf.mri.co.jp/information/#news>
(英語版はサイト右上の[EN]ボタンをクリックして表示)

ICFサイト上では「Insight Report」としてICFで実施したFCP(未来共創プロジェクト)の概略と三菱総合研究所の見解を紹介しています。会員の皆さまと課題を広く共有し、新たなインサイトを提示することで次の動きにつなげることを目指しています。2023年度は、気候変動FCP「脱炭素に向けて生活者の行動変容を引き起こす!」を公開しました。
(https://icf.mri.co.jp/wp-content/uploads/2023/05/CN_Insight-Report_230523.pdf)

さらに、社会課題解決型ビジネスを手掛ける有望スタートアップ(ベンチャー会員)を取り上げ、代表者の人柄、起業に至る経緯や事業内容などのナラティブを紹介するインタビュー記事「インパクト起業家ストーリー」をICFサイトで公開しています。また、ICFの公式SNSとしてFacebookおよびX(旧Twitter)での情報発信を行っています。アカウントをお持ちの方はぜひフォローをお願いいたします。

未来共創イニシアティブ
～プラチナ社会を実現～
Monthly NEWS
2023年12月号

活動報告

ICF Startup Showcase 2023 (12/8)

12/8(金)「ICF Startup Showcase 2023-Business Acceleration Program 最終審査会・受賞者ピッチ」を開催しました。ファイナリスト7社と特別賞受賞者8社のピッチに加え、KOTRA(大塚原田投資振興公社)による前回はスタートアップ説明、ブース出展・ネットワーキングも実施し、盛会のうちに終了となりました。

ファイナリストを対象とした最終審査では、ICFアドバイザーを含む有識者5名および審査員による厳正な審査の結果、以下リリースのとおり各受賞者を決定しました。

[「ICF Business Acceleration Program 2023」受賞者発表イベントとビジネスと社会課題解決を目指すスタートアップを支援 | 三菱総合研究所 \(MRI\)](#)

今後、今回の受賞者15社をはじめ、本プログラムに応募された皆さまを個別/パートナー候補として、さまざまな形で継続的に応援し、より大きな社会インパクトにつながる社会課題解決を目指します。ICF会員の皆様におかれましては、ご関心のあるスタートアップがいらっしゃいましたら、申請期間までご連絡いただきますようお願いいたします。さらなる共創の輪を拡大できればと思います。

ピッチ ネットワーキング

ファイナリストと特別賞受賞者、審査員、MRI関係者

Facebook : <https://www.facebook.com/MRIICF>
X : https://twitter.com/MRI_ICF

インパクト起業家ストーリー

(<https://icf.mri.co.jp/information/#story>)

2023年度取材(#30～#42)

30 株式会社 With The World

日本と海外の学校や教育機関を繋いで、グローバルに社会課題を議論するオンラインプログラムを提供。神戸発のスタートアップ企業
<https://icf.mri.co.jp/information/information-12861/>

31 株式会社 ninpath

分かりにくい不妊治療をさまざまな側面から可視化。先の見えないトンネルになりかねない不妊治療に伴走し、メンタルケアを提案するアプリ「ninpath」
<https://icf.mri.co.jp/information/information-13452/>

32 株式会社 EduCare

「教育格差⇔経済格差」の負のループを断ち切る教育ファイナンススタートアップ
<https://icf.mri.co.jp/information/information-14502/>

33 mirrorX 株式会社

世界初、専用機器を一切使わずスマホとテレビだけでメタバースを体験できるVRアプリ
<https://icf.mri.co.jp/information/information-14690/>

34 株式会社 Qwi

個人認証システムQwiで個人認証をスマートに、安全に、確実に。約1年半で12,000ダウンロード、新着アプリランキング1位獲得のアプリ「Qwi」を開発
<https://icf.mri.co.jp/information/information-14974/>

35 株式会社 salmontech(サーモンテック)

低コストなエコー装置の実現を通じて、新たな医療とヘルスケアの可能性を追求する
<https://icf.mri.co.jp/information/information-14982/>

36 Scene 株式会社

3D CADデータの二次活用により組立工程の情報伝達を圧倒的に効率化するドキュメントツールを開発
<https://icf.mri.co.jp/information/information-15124/>

37 &PUBLIC 株式会社

目指す社会的成果とそこに至るまでの道筋を整理し社会的価値を可視化。社会的インパクトを最大化するための事業改善を独自のアプローチで支援
<https://icf.mri.co.jp/information/information-15152/>

38 株式会社 Next Relation

パブリックアフェアーズで世論を喚起し、新たな市場を創出。企業と社会の持続的成長を目指して
<https://icf.mri.co.jp/information/information-15204/>

39 株式会社 アダコテック

ディープラーニングを使わない独自のAI画像解析技術を用いて製造業向けに異常検知・画像分類プロダクトを提供する産総研発ベンチャー
<https://icf.mri.co.jp/information/information-15408/>

40 株式会社 バイオーム

独自開発のスマホアプリによって、世界中の生物分布のデータを収集。多様な生物の保存・保全を加速させるため独自のプラットフォーム構築を目指す
<https://icf.mri.co.jp/information/information-16746/>

41 特定非営利活動法人 あなたのいばしょ

日本で唯一の24時間365日、誰でも無料・匿名で利用できるチャット相談窓口。「望まない孤独」に寄り添う
<https://icf.mri.co.jp/information/information-16815/>

42 株式会社 nanoni

大手企業が次々と採用。女性のさまざまな健康問題に対応できるフェムテック福利厚生プラットフォーム「carefull」で、女性活躍推進のカルチャーを社内醸成
<https://icf.mri.co.jp/information/information-17058/>

ICFアドバイザリーボード

ICFの活動に賛同し、指導・支援していただく国内外の専門家、有識者をアドバイザーに迎えています。

※50音順・敬称略



稲蔭 正彦

慶應義塾大学大学院
メディアデザイン研究科
委員長 兼 教授/
メディア・スタジオ株式会社
代表取締役



ウリケ・シェーデ

カリフォルニア大学
サンディエゴ校
日本ビジネス 教授



各務 茂夫

東京大学大学院
工学系研究科
技術経営戦略学専攻
教授



鎌田 富久

TomyK Ltd. 代表
(株式会社ACCESS
共同創業者)



小宮山 宏

三菱総合研究所
理事長



梶山 泰生

京都大学 名誉教授/
梶山女学園大学
現代マネジメント学部
教授



校條 浩

NSV Wolf Capital
マネージング・パートナー



**リチャード・
ダッシャー**

スタンフォード大学
アジア・米国技術経営
研究センター 所長

ICF 会員

会員一覧

ICF の理念にご賛同いただける様々な企業・団体にご参加いただいております。

会員数 : 614 2024年2月29日 現在

共創会員(15社)

※50音順

NTT DATA

株式会社NTTデータ

100年をつくる会社
鹿島

鹿島建設株式会社

あなたの未来を強くする
住友生命

住友生命保険相互会社

化学は世界を美しくする。
第一工業製薬

第一工業製薬株式会社

Daiwa House

大和ハウス工業株式会社

中部電力

中部電力株式会社

電通総研

株式会社電通総研

TOTO

TOTO株式会社



TOKIOMARINE

東京海上ホールディングス株式会社

Orchestrating a brighter world
NEC

日本電気株式会社

JBS

日本ビジネスシステムズ株式会社

三菱重工

三菱重工業株式会社

MUFG
三菱UFJ銀行

株式会社三菱UFJ銀行

MUFG
三菱UFJ信託銀行

三菱UFJ信託銀行株式会社

明治安田

明治安田生命保険相互会社

一般会員 個別の会員名についてはICF Webサイト(会員一覧 <https://icf.mri.co.jp/member/>) からご確認いただけます。

ベンチャー(232社)

企業(108社)

自治体(147団体)

賛助(112団体)



2023年度 活動報告

発行 2024年4月

作成者 株式会社三菱総合研究所
未来共創イニシアティブ事務局
〒100-8141
東京都千代田区永田町二丁目10番3号

電話 03-6858-3557

E-mail icf-inq@ml.mri.co.jp